

であい・つながり・ともに生きたい

～障がい理解と交流～

学年等

4年生 国語・道徳・総合的な学習の時間・特別活動など

「伝え合う」ということ <資料> 手と心で読む (大島 健甫)

(国語：光村図書 4年上)

「ぼくのお姉さん」 (丘 修三 偕成社)

ねらい

- ◇ 様々な立場の人の状況を知ることにより、共生の視点をもつ。
- ◇ 自分の思いを伝え、仲間の思いを受けとめ、安心できる仲間関係をつくる。
- ◇ 地域の人との出会いや交流を通して、様々な立場の生き方にふれ、思いを知ることにより、自分の生活をふりかえる。

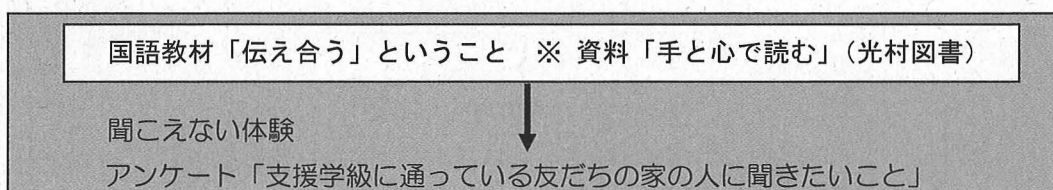
【指導について】

- ▽ 地域の方々をはじめ、学習の中で出会った方々のあたたかさや力強い生き方にふれることにより、その方々の願いや思いを気づかせたい。
- ▽ 学習の中で出会った人の思いに、自分自身の思いや願いを重ね、自分の生活を見つめ、家族や友達とのつながりについて考えさせたい。
- ▽ 総合的な学習の時間では、国語科の教材と関連づけて進めていく。

取組みの流れ

<全 38 時間>

第一次 (7 時間)

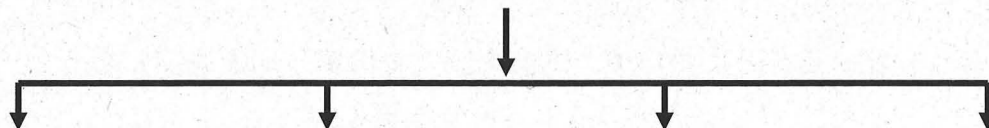
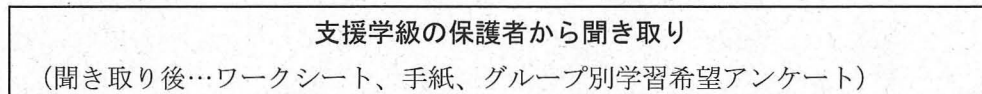


第二次 (6 時間)

道徳教材「ぼくのお姉さん」 作：丘 修三 (偕成社)

感想…自分ならどうするか考えながら書く。
保護者に感想を書いてもらう。

第三次 (25 時間)



【テーマ別グループによる学習】

身体・知的障がい	精神障がい	高齢者	外国の方
身体・知的障がい者 作業所で働く方につ いて教材学習 (母の手記より)	精神障がい作業所の メンバー、スタッフ から聞き取り	高齢者と関わる仕事 をする保護者から聞 き取り	タイの方とそのサポ ーターから聞き取り
身体・知的障がい者 作業所訪問。 見学・聞き取り	精神障がい者作業所 訪問。見学・聞き取 り・交流	特別養護老人ホーム 訪問。見学・聞き取 り・交流	大学訪問。 留学生(中国)から聞 き取り

(聞き取り後…ワークシート、お手紙、まとめ2h)

クラス報告会(2h) グループ別学習で学んだこと、感じたこと

視覚障がいのある人とヘルパーの方から聞き取り
(聞き取り後…ワークシート、お手紙)

作文「みんなに伝えたいこと」

Aさんから聞き取り

語　　る　　会

自分を振り返り、仲間を見つめる。

まとめ：お家の方へお手紙

この取組み全体で自分が学んだこと、伝えたいことを書く。

展開例

第一次 7時間 国語教材「伝え合う」ということより

【目標】

- ◇ 文章を読んで伝え合う方法に興味をもち、自分の課題をもって調べたり、発表したりできる。
- ◇ 知らせたいことの中心がわかるように話したり、友だちの発表の大事なところを聞き取ったりできる。
- ◇ 自分の考えや思いが、相手に伝わるように工夫して書くことができる。
- ◇ 中心となる語や文をとらえて、話の内容を読み取ることができる。
- ◇ 相手やその場に応じた適切な声の大きさや速さに気をつけて話ができる。

① 「伝え合う」ということについて、本文を読んでの第一印象を話し合う。 1h

- ▽ 伝え合い、分かり合い、支え合うことについての自分なりの考えをもち、話し合わせる。
- ▽ 本文を読んで第一印象を書き、これから学習していく内容について見通しをもたせる。

② 資料の最初のまとまりを読み、点字について知っていることを話し合う。 1 h

▽ 身の周りの物、生活経験などを思い出す。その際、実物や写真など、参考になるものを用意することにより、理解を深める。(点字を活用している物や施設などの写真や実物を用意)

③ 資料の中のまとまりを読み、筆者の苦労や思いを話し合う。 1 h

▽ 筆者が文字を失う悲しみ、母親の愛情、再び文字を持つことができる喜びを、文章から読み取らせる。

④ 資料の最後のまとまりを読み、点字について知る。 1 h

▽ 点字のしくみについて、実際に書いてみたり、読んでみたりしながら理解させる。
(点字を打つ道具を用意)

⑤ 点字について、図書館やインターネットで調べてまとめ、発表する。 2 h

▽ 調べたことについて、ワークシートにまとめ、言いたいことを簡潔にまとめて発表させる。

⑥ 疑似体験を通して、視覚障がいの方の思いを話し合う。 1 h

▽ とともに生きるという視点をもてるよう、話し合わせる。

<教員の振り返り> 「伝え合う」ということを学習して

子どもたちは、点字にとっても興味をもち、読み進めていった。その中で「視覚障がいのある人が白い杖をついているのを見たことがある。」「目が見えにくいのにポストに手紙を入れていた人がいた。」「缶かんにも点字がついていた。」と意欲的に身の周りの物や人に注目していった。そんな中から「視覚障がいのある人から話を聞いてみたい。」という意見も出てきて、「出会って、思いにふれる場があればいいね。」と学習を終えた。

また、この学習で、支援学級に在籍する4人の仲間について考える児童もいた。「1学期に支援学級に見学に行ったが、知らないことも多かった。」「障がいて何だろう。」「他のクラスの子のことも知りたい。」という子どもたちの思いを受け、支援学級に在籍する児童の保護者に聞き取り学習に協力いただけるようお願いした。

第二次 6 時間 読み物教材「ぼくのお姉さん」より

【目標】 (ダウン症の姉をもつ小学5年生の正一の視点から書かれた物語)

- ◇ 自分とは違う様々な個性や立場を持った人への理解を深める。
- ◇ 他の人とは違う自分の個性や立場を見つめ、家族や友達との中で、自分らしく生きていくことについて考える。
- ◇ とともに生きることについて、自分の思いを伝え、仲間の思いを受けとめながら話し合う。

① 本文を読んだの第一印象を書いて話し合う。 1 h

▽ 文章全体の構成をとらえて、一番心に残ったところについて、話し合わせる。

② 文章全体の構成をとらえ、各段階の内容を読み取り話し合う。 3 h

▽ 各段階で、中心となる言葉や文をとらえて、ぼく・姉・母・父の思いを自分なりにまとめ、発表させる。

第一段落：ぼくから見たお姉ちゃんの特徴

第二段落：ぼくとお姉ちゃんのエピソード

第三段落：お姉ちゃんの指きり

第四段落：お姉ちゃんの初給料とごちそう

③ 読み取ったことを、お家の人に手紙で伝える。 1 h

▽ 今まで話し合ったことなどを参考に、自分がわかったことや、考えたことを書かせる。

▽ 手紙の返事をお家の人からいただくことも伝えるように指導する。

④ お家の人からの手紙を読み、感想を交流しあう。 1h

- ▽ 交流してもよい手紙であるかどうか気をつけて数点を選び、承諾を得て、読んで聞かせる。
- ▽ この後、実施する総合的な学習の時間で行う取組みにつなげられるようにする。

<教員の振り返り>

「ぼくのお姉さん」を学習して

この話は、ダウン症の姉をもつ小学5年生の正一の視点から書かれた物語である。姉のよさをわかりつつも、友だちにならなかつた経験から自信が持てず悩む正一。自分の兄弟姉妹について作文を書くという宿題も、なかなか筆が進まない。しかし、姉が作業所で働いた初任給で家族にごちそうしてくれた後、心が動き作文を書き始める。「ぼくのお姉さんは障がい者です。」と…。

この話に登場する正一は、子どもたちと年齢も近く、心打たれる教材であり、障がいのある兄弟姉妹を持つ児童にとっても、エールを送ってくれる教材であった。また、仲間関係について考えさせられる場面もあった。

<児童の感想>

「ぼくのお姉さん」を学習して

- 「Bがお姉ちゃんの口調をまねて、Aと顔を見合わせてわらいころげた。」

わたしは、この文を読んだとき、AとBが笑ったのはゆるせないと思った。もし、正一だったらもっともっとゆるせないと思う。なぜかというと、わざわざ口調をまねることなんてないと思うからだ。

- わたしのお母さんの弟が心の病気なので、わたしもその正一の気持ちがわかる。(後略)

<保護者の感想>

「児童からの手紙」を読んで

- 学校でも科目の勉強を一生懸命するだけでなく、いろいろなことを正しく学んで、お互いに助け合い、思いやる温かい心をたくさん育ててほしいと願っています。そして、私たち大人もそれをしっかり見守り、協力できる人でありたいと思います。子どもたちと一緒に学んでいくことが大切ですね。

- 人と少し違うところがあると、それをからかってしまうことがあります。人は一人ひとり違うのだから、違いがあつて当たり前だと思っています。私は自分の子どもたちに、世の中には自分を含めていろいろな人がいて当たり前なのだから、誰とでも同じように仲良く、時には助け合つてほしいなと思っています。

第三次

25 時間

総合的な学習の時間などより

□ テーマ別グループによる学習（例：精神障がい理解）

【精神障がい者小規模通所授産施設（作業所）について】

いつも、温かい雰囲気にも包まれている作業所。メンバー（利用者の方）さんは、心悩ますことなどに向き合いながらも、前向きに日々通っておられる。スタッフ（勤務している方）さんは、優しくそして力強く、メンバーさんを支えておられる。そこには、つながり、信頼関係がある。

【聞き取りについて】

作業所からスタッフさん1名とメンバーさん2名に来ていただき、聞き取りをした。メンバーさんは、児童たちにわかりやすいように言葉を選びながら、作業の内容や自分の生活について、また作業所で仲間と出会えた喜びについて話して下さった。

スタッフさんからは、精神障がいとは、寂しいことや心悩ますことが重なり「心のハンドルを切るのが難しく」なった状態であるということなどを教えていただいた。

＜児童の感想＞ 「作業所」のスタッフさんのお話を学習して

- （前略）作業所の方が一番うれしかったことは「仲間ができたこと」でした。私は、仲間は大人になっても大事なんだなあと思いました。○○作業所の人が言っていたように「精神障がい者」という言葉はいいのかわるいのか考えたいです。
- （前略）お話を聞いて心に残ったことは「みんな（仲間）がすごくやさしい」ということです。わたしはそれを聞いて、「そういう仲間をわたしもほしいなあ。」と思いました。（後略）
- 「障がいとはとく別じゃない。」と作業所の人は言っていた。お母さんは、弟に障がいがあっても、決して甘やかさない。私と同じように育てる。その理由は聞いていないけど、障がいとはとく別ではないというもあるんじゃないかと私は思った。（後略）

【訪問・交流について】

作業所に行き、メンバーさんから活動（製品づくり、畑仕事など）やりハビリのこと、ボランティアに手伝ってもらいながら地域に出て活動していることなどを教えていただいた。また、製品にもふれさせてもらった。児童たちは、さおり織りの帽子やかばん、ビーズ製品に「うわあ、すごい！かわいい！」「どうやってつくるん？」と歓声をあげていた。その後、じゃんけんサインゲーム・風船バレーで楽しく交流した。我が家のようなあたたかな雰囲気の中で、やさしさを感じていた。

ここを訪問したグループには兄弟姉妹が支援学級に在籍している児童がいる。その児童にはこの出会いを通して、家族との関係を見つめ、胸を張っていつてほしいと願った。



＜児童の感想＞ 「作業所」交流後のワークシートより

- みんな入ったしゅんかん「かわいいね。」とかしゃべりかけてくれて、明るいし、しゃべりかたもやさしいし、楽しく遊べたから、いっしょに交流してよかったと思った。みんながやさしいから、安心してしゃべりかけられた。障がいだからなにもできないわけじゃなく、みんながひとつ手伝ってくれるだけでできることがふえるときいた。
- 作業所の人はみんなやさしくて明るい。仲がよくて、物をつくるのも上手だし、今までいろいろなことを乗り越えてきたんだなあと感じる。（中略）いやなことを言われても気にしないという人もいた。自分はいやな事を言われたら、すっごく気にするけど、話をきいて気にしなかったら少しはいい気分になれるかなあと思った。
- 前は、たんぼぼ（支援学級）の子と日直が同じだったけど、どうやってやればいいのか、どんなやり方でやればいいのかわからなかったけど、今日、作業所に行って少しわかってよかったです。（中略）家族に「障がいのある人たちはあたたかい人やでえ。」と教えてあげたいです。
- ぼくは○○作業所にいきました。いろいろな障がいがある人がいました。その障がいがある人は、ぼくたちがきて楽しそうにしていました。障がいがあっても特別じゃないと思いました。

取組みを終えて

児童たちは、多くの人に出会い、その人のくらしや願い、やさしさ、あたたかさにあふれることができた。さらに、たくましい生き方に励まされ、自身のこれまでの仲間や家族とのつながりをふり返り、「語る会」では自分の生活や思いを出し合うことができた。そして、そこには聞いてくれる仲間がいた。共感して、気持ちを返してくれる仲間がいた。児童たちは、支えてくれる仲間の確かな存在を実感したに違いない。

<児童の手紙>

取組み後の母にあてた手紙より

この学習で、人のことを考えることとかを学んで、作業所に見学に行ったりしたことを話すと、お母さんはちゃんと聞いてくれたからうれしかった。弟のことをみんなに話して、弟にやさしくするようにしている。この学習で家族ともっとつながれた。

この学習をして、命の大切さがわかったよ。「産んでくれてありがとう。」(後略)

【その後の取組みとして】

その後、5年生となった児童たち。「仕事ウォッチング～心・技・体」の取組みで、地域の仕事場に出かけていった。〇〇作業所では、製品づくりを手伝わせていただいた。体験した児童たちは、帰ってくるなり、目を輝かせながら「家みたいやったわ。また来てもいいって!」と喜んでいた。

<児童の感想>

体験後のワークシートより

- さおりという道具で、布をおりました。はじめは、どうやってやるかぜんぜんわからなかったけど、やさしく、わかりやすく教えてくれたので、すぐなれて楽しかったです。(中略)「上手だね。」とか「色をえらぶのが上手」とか言ってくれました。
- 働いている人は、よく働いている手や、やさしい手をしていました。楽しそうに仕事をしていました。働いている人は、みんなでにぎやかに食事できたり、しゃべったり、自分の作品ができるということが、喜びだそうです。苦労するのは、作品がうまくできない時や、考えがうまくまとまらない時だそうです。

「出会い」から、児童たちが学ぶことは多い。作業所との出会いが、児童たちの心を豊かにし、家族や仲間との関係を見つめる力を育ててくれた。この学習の本当の成果は、これからの児童たちの姿に表れてくるものと期待している。また、同時に見えてくる課題に、前向きに取り組んでいきたい。そして、今後とも児童たちを、「どのように地域と出会わせていくか」について継続して考えていきたい。学校全体として系統的に地域との交流を進めていく中で、児童たちを「地域の子」として、教職員、保護者、地域住民が一丸となって、あたたかく支え、見守っていければと思う。「違い」を「豊かさ」として受け止められるような子どもに育つことを願って…。

最後に、毎年、児童たちを快く受け入れてくださる〇〇作業所、その他の施設の方々に心より感謝している。

【ポイント】

☆ この取組みは福祉教育のテーマに即して、国語・道徳・総合的な学習の時間・特別活動といった各教科などと関連させて指導を行っている。これは一年間の年間指導計画の中に福祉教育や人権教育が明確に位置づいていることを示しており、各教科などが年間指導目標にそつうま連携を図り、実践されている。

国語の授業で個々の問題意識を高めた児童が、実際の調べ学習や交流学习を通して自分自身の問題として考え、行動化(「仕事ウォッチング～心・技・体」)も行っている。このように個々の学びを知識として理解するだけでなく、実際に行動化することで内面化させることも福祉教育では重要な教育目標である。